

社会学演習Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302
必修 2単位

中谷 直司

1. 授業の概要(ねらい)

本ゼミは、国際関係論と政治学の枠組を用いて、国際社会と日本の関係を考察することを大きな共通テーマとします。前期に新書の読解・プレゼン・ディスカッションを通じて習得した知識と考え方を踏まえて、後期では、まずもう少し専門的な教科書を使い、国際関係研究・政治学研究についての理解と知見を深めます。その上で、各自の卒研の構想を発表し、その内容にもとづいた文献の読解と中間報告を実施します(3年生)。

【教科書について】

政治学の方法論には大きく二つあります。一つは理論的アプローチで、前期から使用する『政治学の第一歩』がそうした方法論にもとづいた教科書の代表例です。もう一つは歴史学的方法論で、後期にはまずその特徴を理解するために『国際関係史の方法』の一部を輪読します(近刊予定のため、第一回目の授業に持参は不要)。

2. 授業の到達目標

あなたが実際に読んだ論文が扱っているテーマを中心に――

- (1) 国際関係論／政治学の基本的な「ものの見方」を理解する。
- (2) 国際関係論／政治学の成果(新たな知見)について、説明できるようになる。
- (3) 国際政治学・日本外交分析の課題(まだ明らかにできていないこと)を説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

【個人得点】

- ① グループワークへの貢献度(司会、書記、タイムキーパー)
*一部ピア評価(学生間評価)を取り入れる。
- ② 研究ノートの提出回数／内容(クオリティ)／『国際関係史の方法』の発表担当
- ③ 計3回のプレゼン報告会で質問した数

【グループ得点】

- ① プレゼンテーションの完成度(論理性・わかりやすさ、独創性; 時間管理)
*一部ピア評価(学生間評価)を取り入れる。
- ② 中間報告で質問された数

4. 教科書・参考文献

教科書

マーク・トラクテンバーグ 『国際関係史の方法』(近刊予定) ミネルヴァ書房

参考文献

砂原庸介、稗田健志、多湖淳 『政治学の第一歩』 有斐閣(有斐閣ストウディア)

小川浩之、板橋拓己、青野利彦 『国際政治史――主権国家体系のあゆみ』 有斐閣(有斐閣ストウディア)

5. 準備学修の内容

- ・2-4回:教科書の該当箇所に目を通し、簡単な読書メモを作成する。発表者担当者はプレゼンの準備をする(読書メモは不要)。
- ・5回:卒研の構想(最初期の簡単なもの)を所定のフォーマットにA4・1枚でまとめてくる。
- ・6-15回:卒研構想にそくした書籍をみずから選び、3冊を目標に読む。読み進めた内容は、毎週班内で毎回ミニプレゼンをする。3冊読み終わった段階で、3冊の内容から、卒研構想で仮定した問いに現時点でどのように答えられるか、10分でクラス全体に発表する。

6. その他履修上の注意事項

【取り組み方】

- ・演習であるので、毎回の授業への出席は必須。
- ・ただし座っているだけでは出席と認めないので、毎回必ず1度は発言する(練習と思う)。

【受講要件】

- ・未知のものへの熱意、好奇心。
- ・試行錯誤・遠回りを楽しむ気持ち。

7. 授業内容

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 【第1回】 | 自己紹介／演習の進め方と目的の説明／学術論文リストの配付とグループ分け |
| 【第2回】 | 『国際関係史の方法』の輪読1――第2・3章を中心に |
| 【第3回】 | 『国際関係史の方法』の輪読2――第4・5章を中心に |
| 【第4回】 | 『国際関係史の方法』の輪読3――第6・7章を中心に |
| 【第5回】 | (オンライン)卒研構想の発表 |
| 【第6回】 | 課題文献の講読とグループ内発表 |
| 【第7回】 | 課題文献の講読とグループ内発表 |
| 【第8回】 | 課題文献の講読とグループ内発表 |
| 【第9回】 | 課題文献の講読とグループ内発表 |
| 【第10回】 | 課題文献の講読とグループ内発表 |
| 【第11回】 | 卒研中間報告第1回 |
| 【第12回】 | 卒研中間報告第2回 |
| 【第13回】 | 卒研中間報告第3回 |
| 【第14回】 | 卒研中間報告第4回 |
| 【第15回】 | 卒研中間報告第5回 |